

平成26年度 自己評価書

学校名	和歌山市立岡崎小学校
校長氏名	府中 恵理
作成日	平成 27 年 2 月 20 日

1 教育目標

強いからだと豊かな心を養い、最後までよく考え、意欲的に生きる子どもの育成 育てたい子ども像 ～おもいやりのある子 かんがえる子 さきに行動する子 きたえる子～
--

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	豊かな心	確かな学力
重点目標【P】	・児童・教職員・保護者がそれぞれの立場において、教育目標の具現化に向けた取組を行う。 ・保護者や地域との信頼関係を深めるとともに、地域の関係団体等とも連携を図り、児童の健全育成に努める。	・道徳教育を柱に、教育活動全体を通じて、「豊かな心をもち、よりよく生きようとする子ども」を育成する。 ・自分を大切にするとともに、他の人の良さに気づき、大切にしようとする心を育む中で、人権意識を高める。	・「楽しく、わかる授業」をめざし個々を大切にした授業を行う。 ・授業や「学習タイム」等で基礎的な知識、基本的な考え方の定着を図る。 ・思考力・表現力を伸ばすための取組を行う。
取組の状況【D】	・児童と教職員が常に（いつでも、どこでも、誰にでも）明るく、気持ちのよい挨拶ができるよう、教育活動全体を通じて取り組む。（集会・縦割り清掃・体験等の活動） ・学校からの広報誌や参観・行事等を通じて、学校教育目標や教育活動等を保護者や地域に知ってもらう。 ・子どものことに関して保護者が相談しやすい環境をつくり、家庭との連携を密にして児童の健全育成に取り組む。 ・地域の関係団体等と連携し、児童が安全に登校でき、学びやすい環境（通学路や災害時の安全を含む）をつくる。 ・児童の学年や発達の段階に応じ、地域の方々との交流を深める。	・道徳と他の教科等の時間を連携させた総合単元を組み、教育活動全体を通じて道徳教育を推進する。 ・道徳の時間等をとって学習したことが、実践に繋がる学びとなるよう教育研究を深める。 ・様々な教育課題を解決するための取組をすすめ、一人一人の子どもの個性を生かし、その可能性を最大限に発揮できるようにする。 ・様々な面において、子どもの実態を十分に把握する。 ・縦割り活動を充実させ、異年齢の役割を意識して支え合うとともに、何事にも意欲的に取り組める心豊かな子どもを育てる。 ・学年に応じた心を耕す文学作品に数多く親しませる。	・教材研究を深め、十分な準備のもと、授業を充実させる。 ・「学習タイム」において、全校で統一して計算のスキルを高めるための取組を行う。 ・思考力・表現力を向上させ活用をつけるため、「紀州っ子学びノート」等を活用しながら、考えを書く力や人前で話す力を伸ばしていく。 ・基礎的・基本的な学力の定着を図るため、支援員（市特別支援教育支援員・和歌山大学学生）を活用する。 ・一人一人に合ったペースで着実に学力をつけさせる。 ・基礎体力をつけるための取組を行う。
（評価結果【O】）	・「おはようございます」や「ありがとうございます」など、元気に挨拶などができるよう指導してきたが、日常の会話における言葉遣いに課題が残る。 ・学校ホームページや学校だより等で地域や保護者に学校教育目標や教育活動等を意識的に知らせた。特に、学校のホームページを頻繁に更新することで、活動内容、児童の様子を保護者だけでなく広く地域にも知らせた。 ・児童のトラブルやけが等への対応など、子どもに関して保護者が相談しやすい環境づくりに努めることで、気軽に相談を受けることが多かった。しかし、家庭への連絡が不十分であり、信頼関係が十分に深められなかった。 ・地域の関係団体等と連携して児童の学年や発達の段階に応じ、地域の方々との交流をすることにより児童にとって様々な良い体験ができ、交流も深まった。 ・通学路等の課題に関して、環境整備や課題解決のための支援等において、地域の関係機関と連携して、安全な環境づくりのために対応した。	・11月に市教科等別研修会で、低・中・高学年の3研究授業を提案した。児童の実態を把握した総合単元を組み、教育活動全体で道徳の力を育む工夫をしたが、他の教科等における学習の充実が課題である。 ・いじめに対する早期発見・早期対応をするため、毎月のアンケートで児童の生活や心の変化をつかむとともに、事案発生時には迅速に対応し、取組を進めてきた。しかし、日常における子どもたち同士のかかわりの中で、相手を傷つける言動が見え隠れしていることを常に意識して指導していく必要がある。 ・教師が、縦割り掃除等で積極的に言葉をかけ一緒に活動することで、高学年が主体的に活動できるようになり、責任と自覚の意識が高まりつつある。今後は、労働や奉仕の精神をもって様々な面で意欲的に縦割り活動ができるよう、一層指導・支援する必要がある。 ・ときわクラブとの交流会や社会見学、森林体験学習をはじめ、PTA土曜センター事業の行事における地域の方々との交流をとって、心を豊かにする体験活動を行った。 ・岡崎地区少年補導委員会から本棚を寄贈いただき、県立図書館の一括貸し出しを利用して図書を充実する中で、文学作品に親しませた。	・教材研究を深め、準備をし授業に取り組んだが、授業力に課題が残る。 ・「学習タイム」で計算のスキルを高めるための取組を系統立てて行った。11月からは、曜日毎に漢字や言葉の意味など、工夫して取組を行い、毎日の学習タイムの時間を充実させた。また、月・火曜日を基本に放課後のフォローアップ学習にも取り組んだ。 ・全国学力・学習状況調査では、書く能力において、内容を要約し、与えられた条件中でまとめて書くことが苦手であったり、計算のきまりに気づき、工夫して計算することができなかったり、図形の定義などが理解できておらず、作図が苦手なことなど、課題が大きい。その他の教科領域では、ほぼ理解できている。 ・県学習到達度調査では、6年生は国語・算数ともに県平均を大きく上回ったが、4・5年生は、国語・算数ともに県平均を下回り、特に、国語の課題が大きい。 ・市特別支援教育支援員等が、学級に入り、生活や学習で児童の支援を行った。
改善方法【A】	・保護者や地域の方々一人一人の声を真摯に受け止め、責任をもって取り組む。 ・今後も学校便りや学校ホームページを一層充実させることで保護者だけでなく地域へも広く学校の活動や子どもの様子を知らせていく。 ・地域の方々との連携を一層深め、児童が地域の方々より交流できる行事等を計画していく。 ・地域の関係機関等と連携して通学路の整備を図る。	・和歌山市教育委員会の研究指定2年目の道徳教育の研究に取り組むことで、子どもの豊かな心を育てていく。 ・いじめのない学校づくり、仲間意識を高めるために、総合単元的な道徳学習の取組を充実させるとともに、人権意識を高めるための取組も一層充実させる。 ・落ち着いた雰囲気の中で、一人一人が認められ、互いに高め合うことができるよう指導・支援をしていく。	・十分な教材研究と授業力の向上を図ることで充実した授業を行い、学力を向上させる。 ・思考力や表現力・基礎的な知識の活用力を向上させるため、「紀州っ子学びノート」等を有効に活用していく。 ・「学習タイム」の充実と放課後のフォローアップ等に取り組むことで、一人一人に合ったペースで着実に学力をつけさせる。

3 その他の課題

児童の命を守り、児童が安全・安心に生活を送れるようにする。 ・体調不良やけがが多い状況をふまえ、健康管理視点から保護者への働きかけ等をきめ細かくしていく。 ・火事・地震や津波・不審者に対する避難訓練を行い、防災教育の充実を図る。 体力の向上に向けた取組について今後も方策を考えていく。
